特定外来生物　　同定マニュアル

クモ・サソリ類

キョクトウサソリ科の全種

アトラクス属の全種　　*（Atrax 属全種）*

ハドロニュケ属の全種　　*（Hadronyche 属全種）*

ロクソスケレス・ガウコ　　*（Loxosceles gaucho）*

ロクソスケレス・ラエタ　　*（Loxosceles laeta）*

ロクソスケレス・レクルサ　　*（Loxosceles reclusa）*

ゴケグモ属　　*（Latrodectus 属）*

キョクトウサソリ科全種

分類: サソリ目キョクトウサソリ科

学名: *Buthidae*
英名: Scorpion
和名: キョクトウサソリ科
別名・流通名: ＊下記参照
原産地と分布: 80属約600種が、南極大陸とニュージーランドを除く世界各地に分布する。

未判定外来生物: なし。
種類名証明書添付生物: サソリ目全種（約1600種）

形態的特徴: 全長は15mm～180mmと、種ごとにまちまち。体色は、黄色、オレンジ色、茶褐色、黒褐色、まだら模様など、種によって異なる。はさみは全体的に細長く、爪には大きさの揃った細かい歯が規則的に並ぶ（はさみの掌に当たる部分が極端に幅広となる種もごく一部にいるが、日本への輸入実績は事実上皆無）。尾が太く発達するものが多いが、それほど太くならないものもいる。毒針の付け根付近に刺や突起が発達するものもいる。胸板は縦長の五角形（肉眼では縦長の三角形に見える）だが、幼体や一部の小型種では横長の五角形となる。

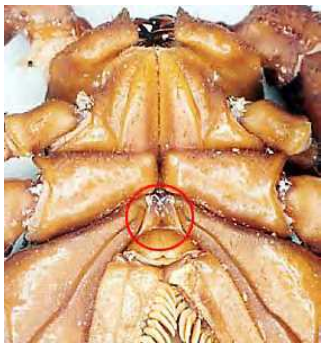
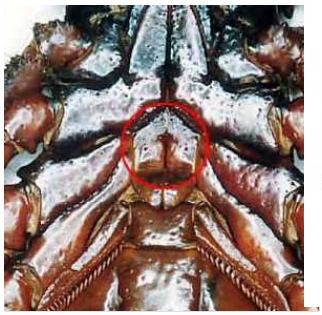
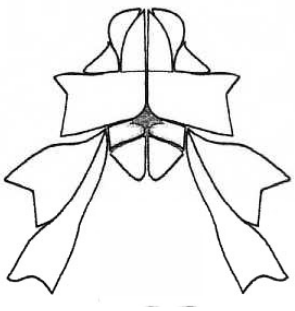
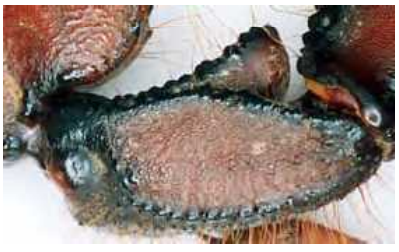
Centruroides margaritatus

Androctonus bicolor

＊流通したことのある主なキョクトウサソリ
学 名　流通名（“スコーピオン”が省略される場合がある）

Androctonus amoreuxi
エジプシャンイエロースコーピオン、
アフリカンファットテールスコーピオン
Androctonus australis
イエローファットテールスコーピオン、イエローデザート
Androctonus bicolor
ブラックファットテールスコーピオン
Centruroides spp
アリゾナバーク、フロリダバーク、セントラルアメリカバーク
セントラルアメリカンブラックスコーピオン
Hottentotta hottentotta
サウスアフリカンゴールデンスコーピオン,
ウエストアフリカングラントスコーピオン
Hottentotta judaicus
イスラエルブラックスコーピオン
Hottentotta minax
サウスアフリカンゴールデンスコーピオン,
ウエストアフリカングラントスコーピオン
Hottentotta trilineatus
イエローロック,サウスアフリカンゴールデンスコーピオン,ウエストアフリカングラントスコーピオン
Leiurus quinquestriatus
デスストーカー,オブトサソリ,イエローロングテールスコーピオン,エジプトゴールデンスコーピオン
Mesobuthus martensii
キョクトウサソリ,チャイニーズゴールデンスコーピオン,チャイニーズバーク
Parabuthus heterurus
ソマリブラックテール
Parabuthus leiosoma
ブラックティップファットテールスコーピオン
Parabuthus mossambicensis
イエローシックテール,レッドティックテールスコーピオン,オレンジジャイアントデスストーカー
Parabuthus pallidus
イーストアフリカンイエローファットテール
Parabuthus transvaalicus
ジャイアントデスストーカー,サウスアフリカンジャイアントファットテールスコーピオン
Parabuthus villosus
キャラメルティックテールスコーピオン

類似した種との識別点

キョクトウサソリ科	キョクトウサソリ科以外のサソリ
はさみは全体的に細長く、掌にすじ（キール）やブツブツ（顆粒）はほとんど見られない。 	はさみは全体的に幅広で、掌にすじ（キール）やブツブツ（顆粒）、網目模様などが見られることが多い。ただし、キョクトウサソリ科の多くの種のように細長いはさみをもつものもいるため、この特徴だけで判断することはできない。
胸板は縦長の五角形で、肉眼では縦長の三角形に見える。中央部の後縁寄りに窪みがあるものの、後縁部に切れ込みは見られない。ただし、幼体やごく一部の種（過去に輸入例なし）では、横長の五角形となるが、後縁部中央の切れ込みは見られない。 	胸板は五角形、または極端に横長の五角形（肉眼では横長のスリット状に見える）。で、いずれの場合も後縁部の中央に深い切れ込みが入る。  
触肢膝節の背面に明瞭な1本のすじ（キール）が見られる。小型種の場合は肉眼での確認は困難。 	触肢膝節の背面にすじ（キール）は見られない。 

特記事項：80属約600種を含む。全種が哺乳類の神経系に作用する毒をもつ。過去に30種ほどの輸入例があり、中でも*Androctonus*属、*Leiurus*属、*Hottentotta*属、*Parabuthus*属、*Centruroides*属などの流通量が特に多かった。

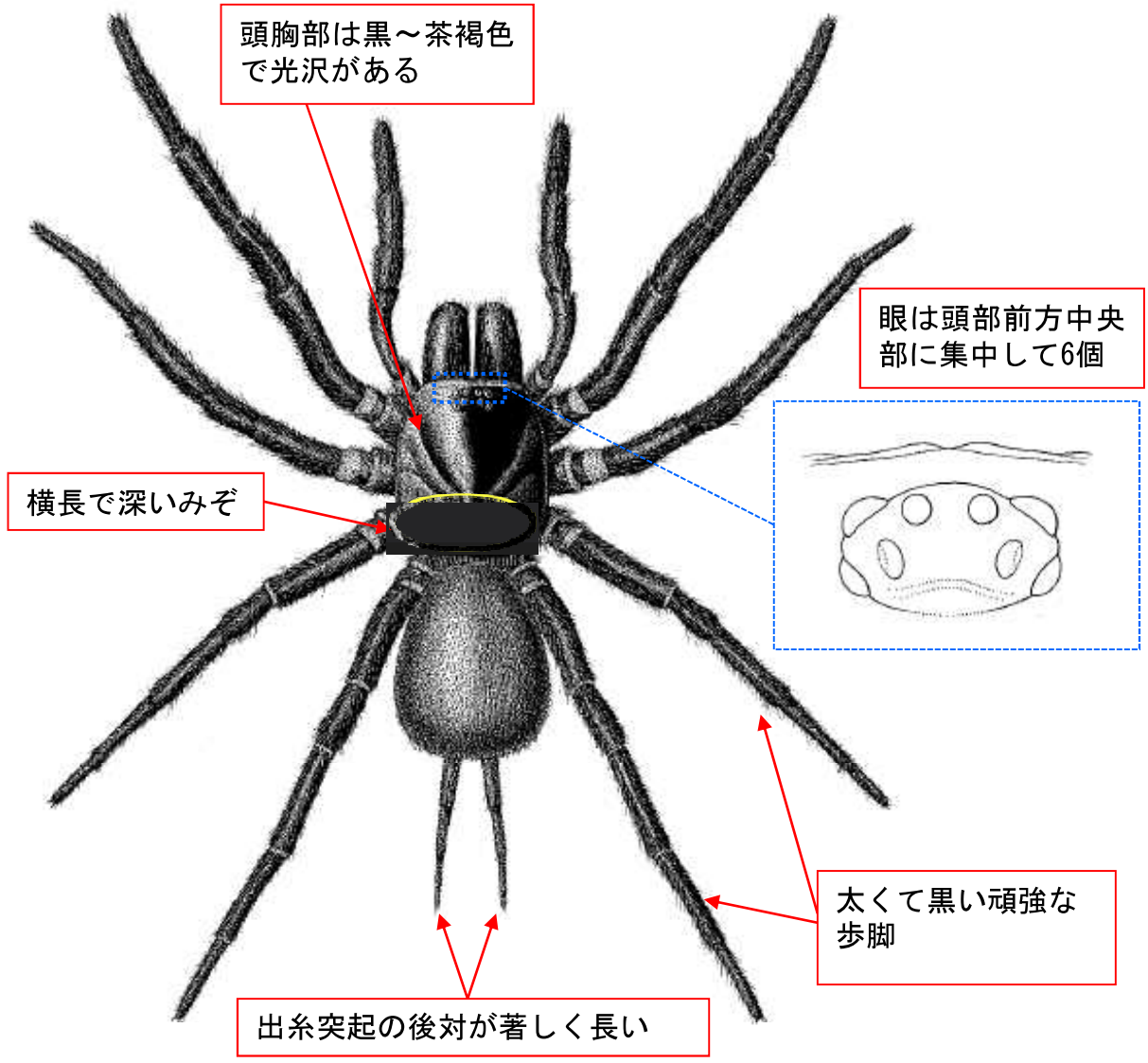
*Atrax*属および*Hadronyche*属の全種

分類:クモ目ジョウゴグモ科

学名:*Atrax* sp.、 *Hadronyche* sp.
英名:Funnel web spiders
和名:なし
別名・流通名:なし
原産地と分布:ニューギニア、ソロモン諸島、オーストラリア南東部、タスマニア

未判定外来生物:なし。
種類名証明書添付生物:*Atrax* 属、*Hadronyche*属の全種

形態的特徴:大型のクモで成体体長は25～50mm。頭胸部や腹部は黒色から茶褐色で、頭胸はほとんどの場合なめらかで光沢がある。歩脚は太くがっしりしている。出糸突起は2対で後対が著しく長い。頭胸部のみぞは横向きで深い。



類似した種との識別点

オオツチグモ科（タランチュラ類）

ジョウゴグモ科の在来種
オオクロケブカジョウゴグモ
Microthele gigas

日本には在来のジョウゴグモ科の種も分布する。ジョウゴグモ属*Macrothele* の種として、オオクロケブカジョウゴグモとヤエヤマジョウゴグモが石垣島と西表島に、アマミジョウゴグモが奄美大島と徳之島の自然林に分布する。ジョウゴグモ属は第4ふ節に刺を持つという特徴があるが、確認には専門家による同定が必要。

特記事項：ジョウゴグモ科は世界に11属86種が知られる。このうち*Atrax*属にはシドニージョウゴグモ*A. robustus*が、*Hadronyche*属の15種が含まれるが、まだ未記載種も残されているようである。オス・メスともに神経性の強い毒を持つために咬まれると危険な生物として原産地では認識されている。本属同様に大型の種として様々なオオツチグモ科の種が「タランチュラ」として愛玩用に輸入飼育されているが、体表の毛の状態と出糸突起の長さで区別できる。

日本への導入・侵入例はない。

ジョウゴクモ科の在来種も存在するので、正確な属の確認には、専門家の同定が必要。

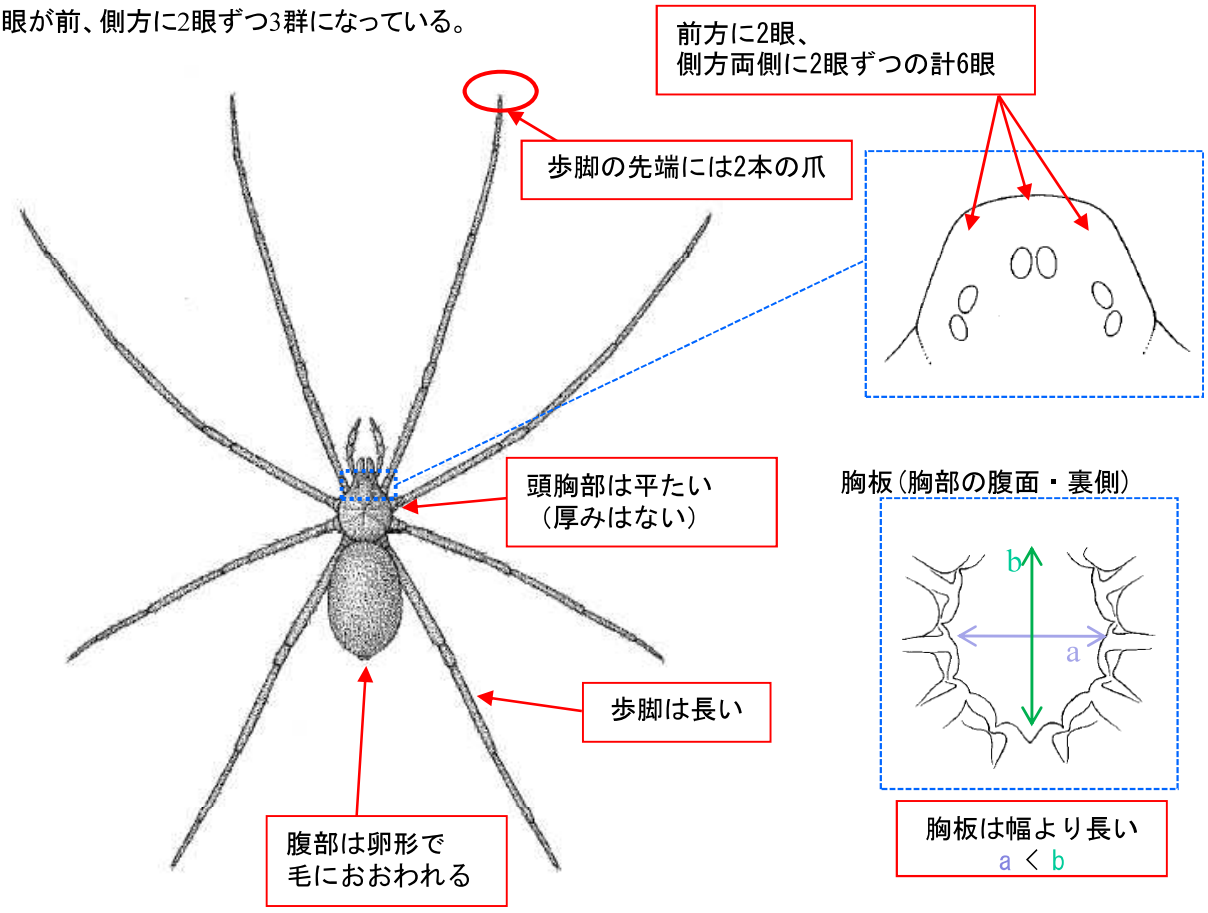
イトグモ属の3種

分類:クモ目イトグモ科

学名:*Loxosceles reclusa*、*Loxosceles laeta*、
Loxosceles gaucho
英名:brown spider、violin spider
和名:イトグモ属
別名・流通名:なし
原産地と分布:*L. reclusa* 北米、
L. laeta 北米(原産地);フィンランド、オーストラリア(移入)
*L. gaucho*ブラジル、チュニジア

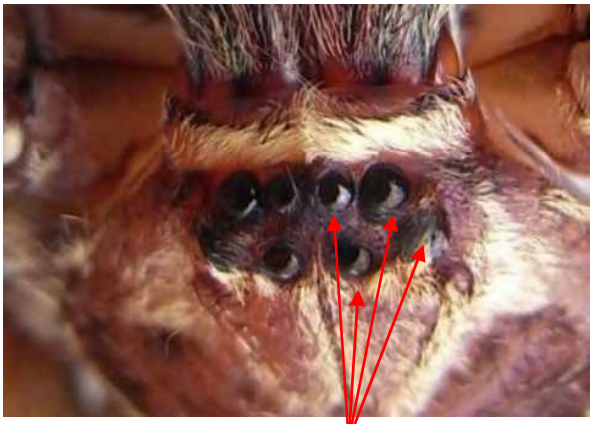
未判定外来生物:なし。
種類名証明書添付生物:イトグモ属の全種

形態的特徴(イトグモ属の特徴)成体の体長5～15mm。頭胸部は黄褐色で、扁平、腹部は卵形で灰褐色から灰黄色で軟毛に覆われる。歩脚は体長に比べて長く、爪は2本。背甲は低く、中窩は縦向きで深い。頭胸部腹面の胸板後端が尖る。6眼が前、側方に2眼ずつ3群になっている。



類似した種との識別点

アシダカグモ　*Heteropoda venatoria*
体長は10-30mm。眼は4対の8眼。



イトグモ （特定外来生物ではない種）
Loxosceles rufescens

日本にも汎世界的に分布する同属のイトグモ *Loxosceles rufescens* が本州、四国、九州、南西諸島に生息する。寺社や人家の物置等の壁板の隙間等にボロ網を張る。夜行性。
特定外来生物かどうかの確認には専門家による同定が必要。

特記事項：イトグモ科には本属と*Sicarius*属の2種が知られ、2属約120種が記載されている。*Sicarius*と本属は胸板が幅より長いことで区別できる。イトグモ属には主に南北アメリカより約100種が記載されている。日本からも汎世界的に分布するイトグモ*S. refescens*が生息する。オス・メスともに壊死性の強い毒を持つため、咬まれると危険な生物として原産地では認識されている。
日本への導入・侵入例はない。
種の確定のためには専門家による同定が必要である。

ゴケグモ属の全種（在来種アカオビゴケグモを除く）
（セアカゴケグモ、ハイイロゴケグモ、クロゴケグモ、ジュウサンボシゴケグモ、他）

分類：クモ目ヒメグモ科

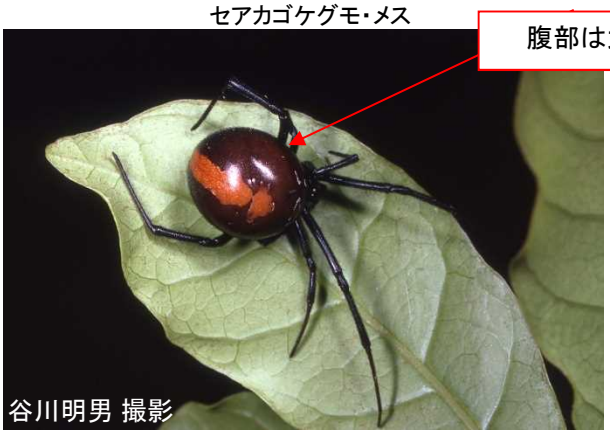
学名：*Latrodectus* spp.（*Latrodectus elegans* を除く）
（例）セアカゴケグモ *Latrodectus hasseltii*
ハイイロゴケグモ *Latrodectus geometricus*
クロゴケグモ *Latrodectus mactans*
ジュウサンボシゴケグモ *Latrodectus tredecimguttatus*
英名：widow spider
（例）セアカゴケグモ redback widow spider, redback spider
ハイイロゴケグモ brown widow spider
クロゴケグモ black widow spider
ジュウサンボシゴケグモ mediteranean black widow spider
別名・流通名：なし
原産地と分布：原産地は種によって様々であるが、熱帯・亜熱帯を中心に暖温帯まで広く分布する。

未判定外来生物：なし
種類名証明書添付生物：ゴケグモ属の全種

形態的特徴

【ヒメグモ科の特徴】8眼で、第4脚のふ節に鋸歯状の毛が並ぶことで、他の科のクモと区別される。
【ゴケグモ属の特徴】成体の体長は、オス3.5～6.0mm、メス7.0mm～12.0mm。背甲は卵型で側眼は広く離れる。腹部は大きな球状。本属は、腹部腹面に赤色の斑紋を持つこと、メスの輸精管とオスの触肢が長く渦巻状という特徴により、ヒメグモ科の他の属と区別される。セアカゴケグモは光沢のある黒色を基調とし、腹部背面に赤色の太い縦条がある。ハイイロゴケグモの色彩はさまざまで、腹部背面が真黒のもの、茶色や灰色を基調として斑紋を有するもの、これらの中間のものなど変異が多い。ハイイロゴケグモの黒色のものとセアカゴケグモは背面の斑紋で区別できる。いずれの種類も成長するにつれて色彩が変化する。

セアカゴケグモ・メス

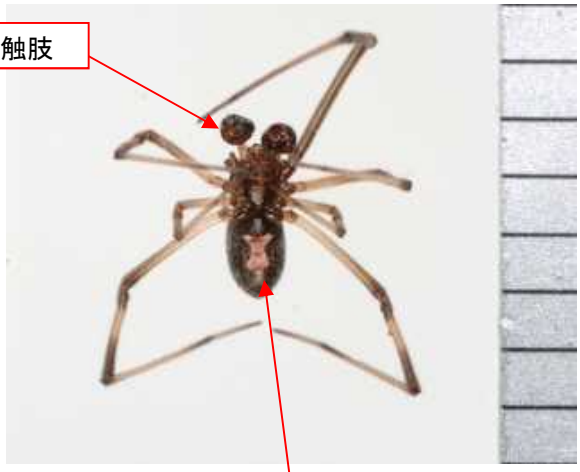


ハイイロゴケグモ・メス

オスは3.5～6.0mmと小さく、腹部が細く、頭部の触肢が丸く膨らんでいる。腹部にはメス同様の斑紋を持つが小さいので判別がしにくい。幼体とオスでは他のヒメグモ科と混同されやすい。また、幼体やオスではしばしば種名の確定が困難なことがある。

セアカゴケグモ･オス（背面）

セアカゴケグモ･オス（腹面）



類似した種との識別点　在来種の中に背面の斑紋が似た種がいるが、これらの種には腹面の斑紋がないことで区別可能。

ムナグロヒメグモ･メス

アシブトヒメグモ･メス

特記事項：ゴケグモ属は、現在31種に整理されている。ただし、分類には様々な見解があり、セアカゴケグモやジュウサンボシゴケグモをクロゴケグモの亜種として扱う場合がある。特にオス個体や幼体での種の区別は難しい場合がある。日本にはセアカゴケグモとハイイロゴケグモが定着している。クロゴケグモは山口県のごく一部で定着している。その他の種については、日本での定着の報告はない。

咬まれると、痛みやかゆみを感じるとともに、リンパ節が腫れる。通常は、数時間から数日で症状は軽減するが、時に脱力、頭痛、筋肉痛、不眠などの全身症状が数週間継続することがある。重症例では、進行性の筋肉麻痺が生じる。